(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3761272号
(P3761272)
(45)発行日　平成18年3月29日(2006.3.29)　(24)登録日　平成18年1月20日(2006.1.20)

(51)Int.Cl.　　F I
A63F 7/02 (2006.01)　　A63F 7/02 326G
A63F 5/04 (2006.01)　　A63F 5/04 512U

請求項の数 1　(全 8 頁)

(21)出願番号　特願平8-355712
(22)出願日　平成8年12月24日(1996.12.24)
(65)公開番号　特開平10-179882
(43)公開日　平成10年7月7日(1998.7.7)
審査請求日　平成13年3月29日(2001.3.29)

(73)特許権者　598098526
アルゼ株式会社
東京都江東区有明３丁目１番地２５
(74)代理人　100104204
弁理士　峯岸　武司
(72)発明者　石原　絵里子
東京都港区高輪３－２２－９　ユニバーサルビル高輪
(72)発明者　竹内　晋
東京都港区高輪３－２２－９　ユニバーサルビル高輪

審査官　伊藤　陽

最終頁に続く

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
入賞に応じて遊技者に払い出される遊技媒体を貯留する遊技媒体受け皿を備えた遊技機において、
前記遊技媒体受け皿は、遊技媒体を収納して持ち運ぶ移動収納箱を収納する空間を有し、かつ、この移動収納箱を持ち上げることなく受け皿外部へ引き抜く自在開閉部が一端部に構成され、前記自在開閉部は、弾性体によって常時閉じられており、前記移動収納箱の引き抜き時に前記弾性体の弾性力に抗してその端部が下側または遊技者側または遊技機側へ回動して開き、前記移動収納箱の引き抜き後に前記弾性体の弾性力によってその端部が回動して閉じ、元の状態に戻ることを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
本発明は、遊技媒体として弾球等を用いて遊技するパチンコ機，ピンボールゲーム機，スマートボールゲーム機といった弾球遊技機や、遊技媒体としてメダル等を用いて遊技するスロットマシンといった遊技機に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
従来、この種の遊技機としては、例えば、図３の正面図に示すパチンコ機１がある。
【０００３】

上皿２に貯まったパチンコ球は遊技者がハンドル３を回動操作することにより、遊技盤４内に発射される。遊技盤４内に打ち込まれたパチンコ球は障害釘に弾かれながら流下し、遊技盤４の下方に設けられたアウト口から回収される。盤面を流下する途中に入賞口にパチンコ球が入った場合には、所定個数のパチンコ球が賞球として上皿２に払い出される。

【０００４】

また、パチンコ機１の機種により、始動口にパチンコ球が入賞すると、遊技盤４の中央部に設けられた可変表示装置が回転し、種々のシンボルが可変表示される。この可変表示装置の停止時に所定のシンボルの組み合わせが表示された場合には大当たりが発生し、変動入賞装置（アタッカ）が開く。この変動入賞装置は所定時間の経過または所定個数のパチンコ球が入賞するまで開き続けるため、多量のパチンコ球が賞球として払い出される。

【０００５】

パチンコ球が上皿２に満杯に貯まると、余剰球は上皿２の裏側に設けられた球通路を通って下皿５に排出され、この下皿５に貯留される。また、上皿２に設けられた球抜きレバー６をスライドさせることにより、遊技者はいつでも上皿２にあるパチンコ球を下皿５に移すことが出来る。

【０００６】

上記のような大当たりが発生して遊技状態がいわゆる大当たり状態になると、上皿２および下皿５は直ぐに満杯となるため、遊技者は下皿５に設けられた球抜きレバー７をスライドさせ、下皿５に貯留されたパチンコ球を下皿５の底の開口部からドル箱８に移動させる。下皿５の下方に置かれたこのドル箱８はパチンコ球を収納して持ち運ぶことが出来る移動収納箱である。

【０００７】

また、従来、図４の斜視図に示すスロットマシン１１もある。

【０００８】

このスロットマシン１１では、投入口１２にメダルが投入された後、遊技者によってスタートレバー１３が操作されると、各リール１４が回転し出す。引き続いて遊技者によって各ストップボタン１５が押圧操作されると、その操作タイミングに応じて各リール１４の回転が停止する。この停止時に各窓１６に表示されるシンボルの組み合わせにより、入賞が発生する。入賞時にはその入賞態様に応じた枚数のメダルが払出口１７から払い出され、コイン受け皿１８に貯められる。

【０００９】

スロットマシン１１の機種によっては、各リール１４の停止時に例えば「７，７，７」等の所定のシンボルの組み合わせが得られると、ビッグボーナスゲームといった大当たり状態が発生する。この大当たり状態では多量のメダルが短時間に払出口１７から払い出され、コイン受け皿１８に貯留される。

【００１０】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来のパチンコ機１ではドル箱８に貯めておくことの出来るパチンコ球数にも限度があり、大当たり時には一気に出球が増加するため、ドル箱８も直ぐに満杯になってしまう。

【００１１】

このような大当たり時に空の新たなドル箱８を取りに行くため、遊技を中断してしまうと、遊技者は多量の遊技球を獲得することの出来る折角のチャンスを逸してしまう。従ってこのような時、通常遊技者は遊技を続行しながら遊技場の店員を呼んで空の新たなドル箱８を代わりに持って来て貰う。

【００１２】

このため、店員は大勢の遊技客のためにドル箱８を何回も持ち運ばなければならず、その手間は多大であった。また、ドル箱８を客に持って行くタイミングが遅れると、下皿５が満杯になって満杯検出スイッチが作動し、賞球の払い出しが停止してしまう。従って、店員は各遊技客の出球状態を監視し、客の要求に応じてドル箱８をいつでも持ち運べるよう

に気を配らなければならない。
【００１３】
一方、遊技客はこのような大当たり時に店員が直ぐに次の新たなドル箱８を持って来てくれるか否か、不安に思うことがあった。
【００１４】
また、上記従来のパチンコ機１では、下皿５が満杯になりそうになるとその都度遊技者が下皿球抜きレバー７を操作し、出球をドル箱８にその都度移す手間が必要とされる。また、遊技に熱中して下皿５が満杯になったことに遊技者が気づかない場合には、満杯検出スイッチが作動して意図せずに遊技が停止し、折角獲得しかけた勝機を逃してしまうこともあった。
【００１５】
また、上記従来のスロットマシン１１では、コイントレイ１８にメダルが一杯に貯まると、その都度、遊技者はトレイ１８内のメダルを手で取り出し、これをドル箱に移す作業が必要とされる。獲得したメダルをこのようにドル箱にいちいち移す作業は、遊技者にとって煩わしい面があった。
【００１６】
【課題を解決するための手段】
本発明はこのような課題を解決するためになされたもので、入賞に応じて遊技者に払い出される遊技媒体を貯留する遊技媒体受け皿を備えた遊技機において、この遊技媒体受け皿に、遊技媒体を収納して持ち運ぶ移動収納箱を収納する空間を備え、かつ、この移動収納箱を持ち上げることなく受け皿外部へ引き抜く自在開閉部を一端部に構成し、自在開閉部は、弾性体によって常時閉じられており、移動収納箱の引き抜き時に弾性体の弾性力に抗してその端部が下側または遊技者側または遊技機側へ回動して開き、移動収納箱の引き抜き後に弾性体の弾性力によってその端部が回動して閉じ、元の状態に戻ることを特徴とする。
【００１８】
このように遊技媒体受け皿に移動収納箱を収納させることにより、入賞に応じて遊技機から払い出される遊技媒体は直接移動収納箱に収められる。また、この移動収納箱に遊技媒体が満杯に収納された場合には、移動収納箱を持ち上げることなく受け皿内でスライドさせることにより、自在開閉部が開き、移動収納箱は受け皿外部へ引き抜かれる。
【００２１】
【発明の実施の形態】
次に、本発明による遊技機を前述したパチンコ機に適用した一実施形態について説明する。
【００２２】
図１は本実施形態によるパチンコ機の下皿部分を一部拡大して示す斜視図である。本実施形態におけるパチンコ機も、従来と同様、下皿２１の上方には前述した上皿２があり、入賞が生じた場合に遊技者に払い出されるパチンコ球を貯留するこれら上皿２および下皿２１は、パチンコ機の前面で上下方向に配置されている。下皿２１の右方にはハンドル３があり、このハンドル３が回動操作されると、前述したように上皿２にあるパチンコ球が遊技盤４内に打ち込まれる。
【００２３】
本実施形態によるパチンコ機の下皿２１には、パチンコ球を収納して持ち運ぶ移動収納箱であるドル箱２２を収納する空間が備えられている。従って、下皿２１の内部空間は従来のパチンコ機１の下皿５の内部空間よりも大きく形成されている。
【００２４】
また、ドル箱２２の左方上部には球排出口２３が設けられている。この球排出口２３は裏側の球通路を介して上皿２に通じており、この球排出口２３からは上皿２の余剰球が排出される。従来のパチンコ機１ではこのような球排出口は下皿５の底部付近に設けられていた。

【００２５】
下皿２１は下皿本体２１ａと自在開閉部２１ｂとから構成されている。自在開閉部２１ｂは下皿２１の左端部に形成されており、ドル箱２２はこの自在開閉部２１ｂによって持ち上げられることなく後述のように受け皿外部へ引き抜かれる。
【００２６】
図２の正面図に示すように、下皿本体２１ａおよび自在開閉部２１ｂはお互いの底面が蝶板２４によって連結されており、自在開閉部２１ｂはその左端部がこの蝶板２４を中心に下方に回動する。この自在開閉部２１ｂは、図示しないスプリング等の弾性体によって同図の実線に示す状態に常時閉じられている。
【００２７】
自在開閉部２１ｂが下皿本体２１ａに向けて閉じられる力はこの弾性体の持つ弾性力によって調整され、この弾性力は、下皿２１にパチンコ球が満杯に貯まっても自在開閉部２１ｂが簡単に開かない力に設定されている。
【００２８】
また、下皿２１の下方には、図１に示すように、第２のドル箱２５が従来のパチンコ機１と同様に置かれている。下皿２１に貯まったパチンコ球は、従来と同様に下皿２１に設けられた球抜きレバー２６をスライドさせることにより、下皿２１の底部から下方のドル箱２５に落下する。
【００２９】
このような構成をした本実施形態によるパチンコ機では、遊技時に、第１および第２の２つのドル箱２２，２５が上記のように同時にパチンコ機にセットされる。遊技をしていくうちに上皿２にパチンコ球が満杯に貯まると、上皿２から余ったパチンコ球は排出口２３を介して第１のドル箱２２に直接収納される。
【００３０】
下皿２１にセットされたこの第１のドル箱２２がパチンコ球で満杯になると、この第１のドル箱２２は自在開閉部２１ｂを介して下皿２１から引き抜かれる。
【００３１】
つまり、パチンコ球で満杯になった重い第１のドル箱２２は、持ち上げられることなく図２に示す左矢印方向に移動させられる。自在開閉部２１ｂは、第１のドル箱２２が左方に移動させられるこの力により、常時閉じる弾性力を発揮している弾性体の力に抗し、その端部が矢示するように下側に回動する。この結果、自在開閉部２１ｂは同図の二点鎖線に示すように開き、第１のドル箱２２が左方に引き抜かれる。
【００３２】
第１のドル箱２２が下皿２１から引き抜かれると、自在開閉部２１ｂは弾性体の弾性力によってその端部が回動して閉じ、同図で実線に示す元の状態に戻る。また、第１のドル箱２２が引き抜かれると下皿２１の空の収納部が現れ、排出口２３から排出されるパチンコ球はこの下皿２１に貯められるようになる。
【００３３】
この下皿２１がパチンコ球で満杯になると、球抜きレバー２６によって下皿２１に貯まったパチンコ球が下皿２１の下方に載置された第２のドル箱２５に移され、この第２のドル箱２５に貯留されるようになる。
【００３４】
このように本実施形態によるパチンコ機では、上皿２の余剰球は第１のドル箱２２に直接収納され、従来のように、上皿２に設けられた球抜きレバー６を操作をすることなく、貯留量の大きなドル箱２２に収納される。従って、本実施形態によるパチンコ機によれば、球抜きレバー６を操作する遊技者の手間が省け、その分、遊技者は遊技に熱中することが出来るようになる。しかも、このドル箱２２は上記のように下皿２１から簡易に引き抜けるため、下皿２１にセットされたドル箱２２の持ち運びに労を煩うこともない。
【００３５】
さらに、従来のように、遊技者の気づかないうちに貯留量の小さな下皿にパチンコ球が満

杯になり、満杯検出スイッチが作動して遊技が中断されてしまうといった不都合も生じにくくなる。

【００３６】

また、本実施形態によるパチンコ機では、払い出されるパチンコ球は省スペースで第１および第２の２つのドル箱２２，２５に収納される。このため、大当たりが発生して大当たり状態になり、パチンコ機から一気に多量のパチンコ球が払い出されても、遊技者は、ドル箱の収納容量を従来のように気にすることなく、安心して遊技を続行することが可能となる。

【００３７】

また、遊技者の手元に貯留することの出来るパチンコ球の量が増えるため、遊技場の店員が遊技客の要求に応じて空のドル箱を運ぶ従来の手間は軽減される。また、大勢の各遊技客が獲得するパチンコ球の量を監視する店員の気配りの負担も軽くなる。

【００３８】

なお、上記実施形態では、自在開閉部２１ｂの端部が下側に回動して開く構成について説明したが、開く方向はこれに限定されることはない。例えば、自在開閉部の端部が遊技者側つまり手前側に回動して開く構成であってもよく、また、パチンコ機にスペースが存在する場合には遊技機側つまり向こう側へ回動して開く構成であってもよい。

【００３９】

また、上記実施形態では、上皿２にあるパチンコ球が裏側の球通路を通って排出口２３から下皿２１に排出される構成について説明したが、上皿２の球抜きレバー６を操作すると上皿２の底部が開口し、裏通路を介することなく球が直接下皿２１に落下する構成としてもよい。

【００４０】

また、上記実施形態において、排出口２３に自在に伸縮するノズルを設け、排出口２３から出るパチンコ球をこのノズルを通して下皿２１へ排出させる構成としてもよい。このような構成によれば、下皿２１に収納されたドル箱２２を引き抜いた後、ノズルを伸ばしてこのノズルを介して球を排出させれば、排出口２３と下皿２１の底部との落差が縮められ、パチンコ球は弾かれることなく下皿２１に収納される。

【００４１】

また、上記実施形態では本発明による遊技機を図３に示すようなパチンコ機に適用した場合について説明したが、図４に示すようなスロットマシンに本発明を適用することも可能である。

【００４２】

例えば、遊技媒体受け皿であるコイントレイ１８にドル箱を収納する空間を備え、かつ、持ち上げることなくこのドル箱をコイントレイ１８の外部へ引き抜く自在開閉部を一端部例えば右端部に構成する。この自在開閉部も弾性体によって常時閉じられており、ドル箱の引き抜き時にこの弾性体の弾性力に抗してその端部が下側または遊技者側または遊技機側へ回動して開く。そして、ドル箱の引き抜き後に弾性体の弾性力によってその端部が回動して閉じ、元の状態に戻る。

【００４３】

このような構成のスロットマシンにおいても、入賞に応じて払出口１７から払い出されるメダルは直接ドル箱に収められる。ドル箱にメダルが満杯に収納された場合には、持ち上げることなくドル箱を受け皿内でスライドさせることにより、自在開閉部が開き、ドル箱はコイントレイ１８の外部へ引き抜かれる。

【００４４】

従って、スロットマシンから払い出されるメダルは貯留量の大きなドル箱に直接収納されるため、トレイ内のメダルを手で取り出す従来の遊技者の手間が省ける。しかも、ドル箱はコイントレイ１８から簡易に引き抜けるため、ドル箱の持ち運びに労を煩うこともない。さらに、ドル箱を引き抜いた後は、コイントレイ１８に従来と同様にメダルが貯められるため、大当たり状態が発生して短時間に多量のメダルが払い出されても、遊技者はメダ

ルの収納容量をそれ程気にすることなく、遊技を続行することが可能となる。

【００４５】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、遊技媒体受け皿に移動収納箱を収納させることにより、入賞に応じて遊技機から払い出される遊技媒体は直接移動収納箱に収められる。また、移動収納箱に遊技媒体が満杯に収納された場合には、移動収納箱を持ち上げることなく受け皿内でスライドさせることにより、自在開閉部が開き、移動収納箱は受け皿外部へ引き抜かれる。

【００４６】

このため、遊技機から払い出される遊技媒体は、特別な操作をすることなく、貯留量の大きな移動収納箱に直接収納される。従って、遊技者の手間が省け、その分、遊技者は遊技に熱中することが出来る。しかも、この移動収納箱は受け皿から簡易に引き抜けるため、移動収納箱の持ち運びに労を煩うこともない。

【００４７】

さらに、遊技者の気づかないうちに貯留量の小さな受け皿に遊技媒体が満杯になり、遊技が中断されてしまうといった不都合も生じにくくなる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明の一実施形態によるパチンコ機の下皿部の構成を示す一部拡大斜視図である。

【図２】図１に示す下皿部の正面図である。

【図３】従来のパチンコ機の正面図である。

【図４】従来のスロットマシンの斜視図である。

【符号の説明】

３…ハンドル

２１…下皿

２１ａ…下皿本体

２１ｂ…自在開閉部

２２…第１のドル箱

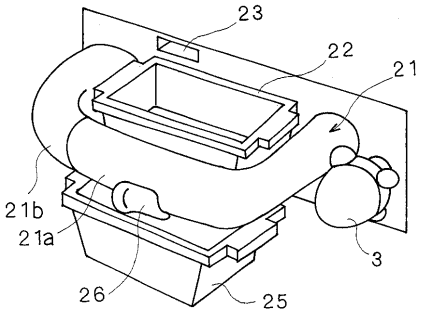
２３…球排出口

２４…蝶板

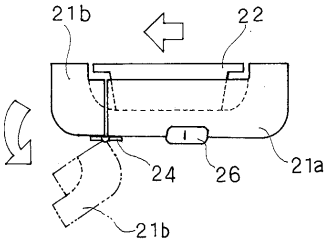
２５…第２のドル箱

２６…下皿球抜きレバー

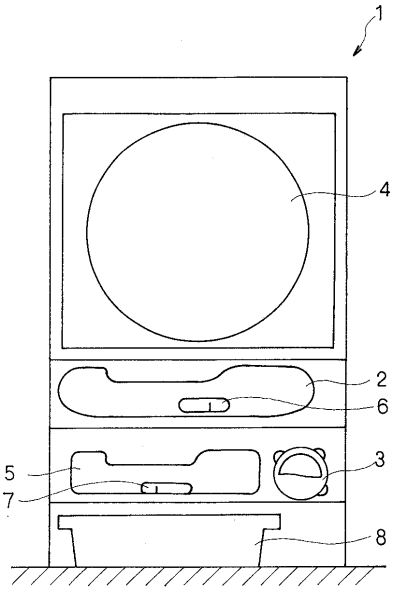
【図１】


23
22
21
21b
21a
3
26
25

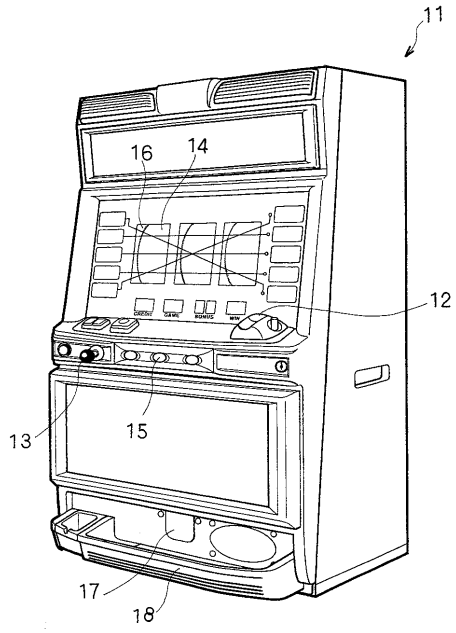
【図２】


21b
22
24
26
21a
21b

【図３】


1
4
2
6
5
7
3
8

【図４】


11
16
14
12
13
15
17
18

フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭５０－１２７５７９（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６３－１５４０７６（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５０－７１０８８（ＪＰ，Ｕ）
実開平４－１２６５９２（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６２－７８９７９（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A63F 7/02
A63F 5/04、512